

旅立ち

シリーズ・パウロ 第6回



パウロの宣教旅行の始まり

＜使徒言行録13:1～5＞

アンティオキアでは、その教会にバルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、キレネ人のルキオ、領主ヘロデと一緒に育ったマナエン、サウロなど、預言する者や教師たちがいた。彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が告げた。「さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出しなさい。わたしが前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために。」そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた。聖霊によって送り出されたバルナバとサウロは、セレウキアに下り、そこからキプロス島に向け船出し、サラミスに着くと、ユダヤ人の諸会堂で神の言葉を告げ知らせた。



宣教旅行までの経緯

- アンティオキア教会の誕生
 - － バルナバとパウロの教育により
 - － 様々な種類の人々で構成された教会が誕生
- クリスチャンたちは礼拝と断食を行っていた
 - － 「礼拝」とは犠牲を払って奉仕・仕えること
 - － 「断食」はユダヤ教の祈祷習慣のひとつ
 - － キリストの福音を広く伝えたいと願った？



宣教旅行までの経緯

- 聖霊のお告げ
 - －バルナバとパウロを選ぶ
 - －二人を神が定めておられた仕事に当たらせる
- 更に断食して祈り，手を置いて出発させた
 - －二人の牧師を送り出す痛み
 - －「手を置く」のは彼らが教会を代表して出ていくこと，教会の祈りが背後にあることを象徴する



備えられたパウロ

- 回心
 - － 迫害者から宣教者へ
- 自力活動による失敗
 - － ダマスコー→エルサレム→タルソス
- アンティオキア教会での宣教活動
 - － 異邦人に対するギリシヤ語による宣教
- 宣教旅行へ



イエス・キリストの宣教準備

- 洗礼を受けたとき聖霊が降る

- イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。[ルカ3:21-22]

- 荒れ野での断食(祈り)

- そして、荒れ野の中を“霊”によって引き回され、四十日間、悪魔から誘惑を受けられた。その間、何も食わず、[ルカ4:1-2]



教会の宣教準備

- 弟子たちが集まって祈る

- 「彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた。」[使徒1:14]

- 聖霊が降る

- 「すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。」[使徒2:1-4]



宣教開始のパターン

祈り(断食)／集まって

聖霊が降る

送り出される

なぜこのような手順を踏むのか

わたしの言葉もわたしの宣教も、知恵にあふれた言葉によらず、“霊”と力の証明によるものでした。それは、あなたがたが人の知恵によってではなく、神の力によって信じるようになるためでした。 [1コリント2:4-

